

千葉工業大学 建築学科

私どもの大学の生い立ちは、戦前に興亜工業大学として藤原工業大学（現慶応義塾大学工学部の前身）とともに私立の工業大学としては初めてに近い設立と聞いております。

当時、戦時色の強い学科構成でしたが、さらに戦後は国策的な性格の強い大学だったのでかなり苦難の道を経て、耐えて生き残った感じのする大学です。つい最近までは機械、金属、工業化学、電気、電子、工業経営、土木、建築、精密機械の9学科でしたが、最近工業デザインと情報工学が増え11学科からなっています。

所在地は千葉県習志野市です。JR津田沼駅のすぐそばで、東京駅から30分位です。近くに幕張メッセが建設中で、国際見本市等の施設が建ち並ぶのも間近なはずで

す。このような状況下で本学の技術者育成の研究活動等の使命は決して軽からぬものと思わます。

私どもの建築学科をご紹介する前に、建築学の特徴をご紹介いたします。ご存じのように建築は芸術としての一面をもち、住という人間生活に欠かせぬ所もあって、はなはだ人間臭く、他の工学分野に見られない社会科学に近い研究分野があります。建築は太古の昔から存在し、古い伝統は今なおギリシャ、ローマの意匠が顔をのぞかせたりする一面、先端技術を支援するクリーンルームの設計等と近代産業に欠かせぬ技術や超高層建築のノウハウをもったりして、他の工学とともに人類の見果てぬ夢を果たす役割も演じております。そんな新旧両面をもつ学科です。

建築は計画、構造、設備、生産等に分けられ、私どもの学科も建築計画では各種建築の計画方法を研究しています。また地域の施設配置や土地の利用、交通計画等の都市計画があり、特に芸術的な分野として建築意匠や建築史、造型演習等があります。建築心理学や人間工学も研究対象です。

建築構造では構造力学、地震や風等物理学的な外力に耐える工夫をしたり、火災時の対策を考える防災工学があり、また木、鋼、コンクリートの各々の構造学その構造計算設計が科目としてあります。

建築設備、光、熱、空気、音、水等人間生活に調節の

必要な物理的な量にもとづいて、人間の快適性を保つにはどうしたら良いかを研究するのが環境工学です。人の居住性のためにいろいろなエネルギーを駆使して快適環境を作る、そのための設備のシステムを設計し、建物内に機能させる技術が建築設備で、空調、電気、給排水等の多岐にわたる分野であります。

建築の材料、施工等生産関係も重要で、建物の価格とともにTQCやQCとして建物の耐久性向上や質の向上に関係する大切な部門です。

建築物の寿命には、建物の機能や建築設備が老朽化する場合があります。そのため建物の老朽化の破壊技術の必要性も論議されており、またF.M (Facility Management)として経営的に建物の有効利用をもっと向上させるべきだという考え方もあります。

私どもの学科の各研究分野でORの適用は多いのですが、計画研究室では基本設計をしたキャンパス内施設の規模、たとえば食堂席数やカウンター長さ等を決め、都市計画地域計画のうちに、適正な施設配置を検討して、通学圏や救急車の適正配備、消防署位置とか、医療圏問題の研究に適用しております。幕張メッセの出現や人口増大に伴う大型店の出現は地元業者に大きなインパクトを与え商店街の街並整備等により商業活性化が急務とされています。また房総半島のウォーターフロントの整備は余暇利用や観光資源として重要な課題ですし、自然保護や地域の住宅策定とか、地域の問題は私ども建築家、研究者にとって興味深く、多彩な夢を画かせてくれることでしょう。

(関 龍夫)

会 合 記 録

広告委員会	2月13日(月)	3名
表彰委員会	2月16日(木)	10名
編集委員会	2月17日(金)	11名
主査会議	2月23日(木)	13名
フェロー会議	2月28日(火)	11名